

キッザニア白書

2021



刊行にあたって



キッザニアでは、こども達が日々さまざまな体験をしています。体験中の表情は、真剣であったり笑顔であったりとそれぞれなのですが、体験を終えたこども達からは「自信」や「達成感」が感じられるといわれています。そこで、今回のキッザニア白書では、このようなこども達のポジティブな変化のプロセスおよび

日常生活への広がりについて、非認知能力（IQや点数、指数などで測ることの困難な力・「生きる力」）という視点から探求を試みています。

調査は、当社が株式会社KDDI総合研究所と共同で実施致しました。調査報告は、参与観察とインタビュー調査による「研究1」と、Webアンケート調査の「研究2」で構成されており、定性調査で得られた鍵となる事象を、定量調査で検証する流れとなっています。このように一つの研究テーマを定性・定量の両面から深く追求することは白書において初めての試みであり、エデュテインメント施設であるキッザニアが目指す教育的価値について、知っていただく端緒となればと考えております。

これまでに刊行いたしました3冊の白書では、キャリア・金融・英語といった教育分野について、第一線でご活躍されている各分野の研究者の皆様とそれぞれのテーマについて検証してまいりました。その知見の蓄積に、この白書2021が加わることで、より多くの方々がキッザニアにご興味を持っていただけるきっかけとなれば幸いです。予測困難な時代の中で、こども達と共に、キッザニアも成長を目指してまいります。

KCJ GROUP 株式会社
代表取締役社長 圓谷 道成

CONTENTS



キッザニアについて 3

パビリオン一覧 5

研究 1 2 9

1 キッザニア体験を通じた
非認知能力の醸成 10

2 キッザニアから渡り行く
非認知能力の広がり 13

コラム 16

考 察 17

研究代表紹介 18

特別 OECD東京センター 所長 KCJ GROUP 株式会社 代表取締役副社長
対談 村上 由美子 × 宮本 美佐 19

エピソード集 23

おわりに 25

Appendix 26

キッズニアは、3～15歳のこども達が職業・社会体験できる屋内型施設です。現在、世界20カ国28都市※で展開しており、各国の多様な文化を礎として、世界中のこども達と共に成長しています。

日本には、キッズニア東京・キッズニア甲子園があり、両施設とも体験できる仕事やサービスは約100種類にのぼります。実在している企業がスポンサーとなったパビリオンが約60揃っており、ユニフォームや機材および食材などをご提供いただくことで、本格的な体験を演出しています。また、キッズニアでは専用通貨「キッズ」が流通しており、仕事をする事で給料としてキッズがもらえる他、銀行に預金をしたり、キッズを使って買い物をしたり、サービスを受けたりすることができます。

パビリオンでは、スーパーバイザーと呼ばれるスタッフがこども達を迎えます。スーパーバイザーは仕事の手順だけではなく、その仕事の意義や本質を伝え、仕事を一緒にやり遂げる、“職場のちょっと先輩”という立場からキッズニア体験をサポートしています。

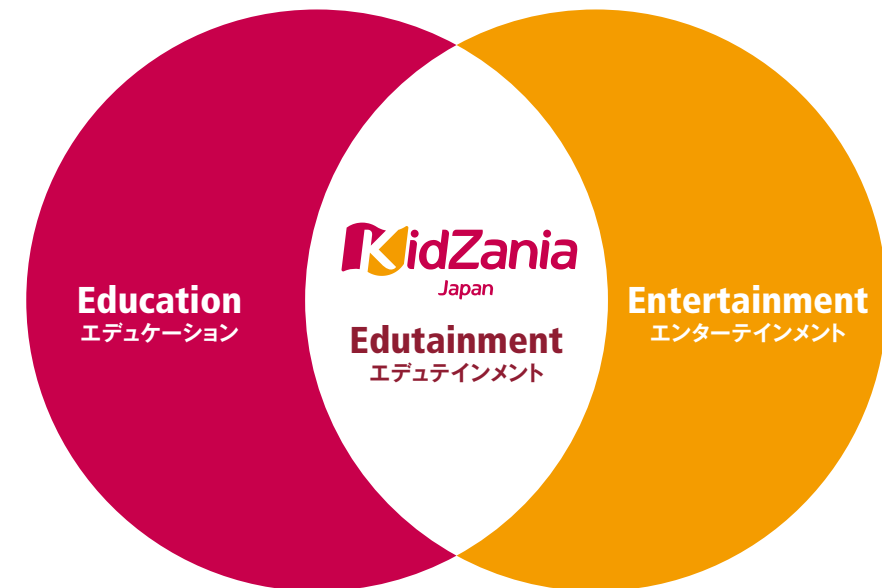
キッズニアでは、これらの職業・社会体験を通じて、こども達がまず“夢中で楽しむ”こと、そこから“それぞれの学びや気づきを得る”ことを大切にしています。そのため、学び（エデュケーション）と楽しさ（エンターテインメント）の両方を兼ね備えた、『エデュテインメント』な場所であることを、常に目指しています。

※2021年1月現在

Get Ready for a Better World

「キッズニア」のコンセプト

キッズニアは、リアルな社会体験を通して、こども達の生きる力を育みます。



こども達の生きる力を育む キッズニア10モットー

キッズニアでは、こども達が今後、社会に出て活躍するために必要なマインドを「10モットー」と定義しています。キッズニアを訪れ、さまざまなアクティビティでの職業・社会体験を通して、自分で考え、行動する力を身につけてほしい、その体験の積み重ねが、「生きる力」を育むのだと考え、日々取り組んでいます。

Appreciation 感謝する心

Respect 尊敬する心

Social 社会貢献する心

Communication 意思の疎通ができる柔軟な心

Challenge チャレンジ精神

Independence 自立心

Creativity 創造力

Hospitality 相手のことを考える心

Environmental 環境を保護する心

Self Discipline 自制心

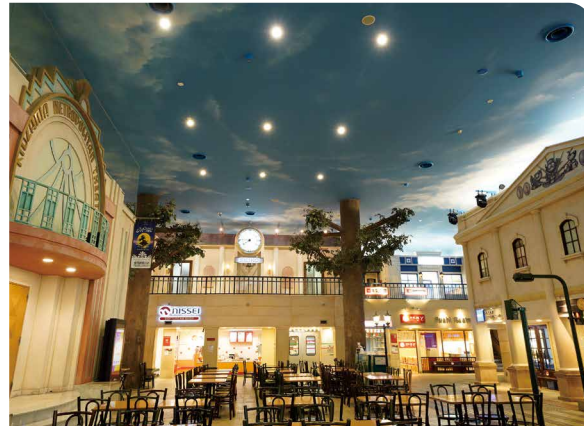




キッズニア東京

東京都江東区豊洲2-4-9 アーバンドック ららぽーと豊洲1
ノースポート 3F

■ 営業日／不定休 ■ 営業時間／[第1部] 9:00～15:00 (6時間) [第2部] 16:00～21:00 (5時間) 完全入替え制



キッズニア甲子園

兵庫県西宮市甲子園八幡町1-100
ららぽーと甲子園

パビリオン一覧

(五十音順)
※2021年2月現在

東 = キッズニア東京
甲 = キッズニア甲子園



甲 医薬研究所



甲 印刷工房



東 甲 運転免許試験場



東 エネルギー会社



東 絵の具屋



東 鉛筆工場



東 お菓子工場



東 甲 おしごと相談センター



東 カーデザインスタジオ



東 甲 カーライフサポートセンター



東 甲 科学研究所



東 甲 ガソリンスタンド



東 家電専門店



甲 ガラス工場



東 観光バス



甲 観光バス



東 甲 銀行



東 くつ工場



東 甲 クライミングビルディング



甲 ケアサポートセンター



東 警察署



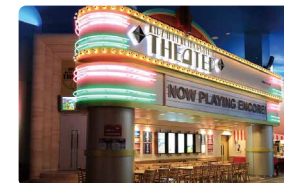
甲 警察署



東 甲 警備センター



東 甲 ゲーム会社



東 甲 劇場



東 コールセンター



東 裁判所



甲 裁判所



東 サッカースタジアム



東 甲 サラダショップ



東 CMスタジオ



東 甲 歯科医院



甲 自動車工場



東 住宅建築現場



東 出版社



甲 出版社



東 甲 証券会社



東 甲 商店街



東 消防署



甲 消防署

東 = キッズニア東京
甲 = キッズニア甲子園



東 甲 食品開発センター



東 甲 新聞社



甲 水道施設



甲 バススタンド



東 発明工房



東 ハンバーガーショップ



東 甲 飛行機



甲 すし屋



東 スポーツクラブ



東 甲 石けん工場



東 甲 ピザショップ



甲 筆記具屋



東 甲 ビバレッジサービスセンター



東 甲 ビューティーサロン



東 総合商社



東 甲 ソーセージ工房



東 甲 ソフトクリームショップ



東 病院



甲 病院



甲 ファーマーズセンター



東 プリント工房



東 甲 宅配センター



東 地下鉄



東 甲 通信会社



甲 ペインティングウォール



東 甲 ベーカリー



甲 ボイラ施設



甲 ホースパーク



甲 DIYスタジオ



東 デパート



甲 デパート



甲 ポストレコーディングスタジオ



東 甲 マジックスタジオ



東 甲 街時計



東 甲 ミルクハウス



甲 テレビ局



東 甲 電子マネーセンター



甲 電 車



東 甲 メガネショップ



東 ラジオ局



甲 ラジオ局



甲 リユースショップ



甲 電力会社



甲 ドラッグストア



東 トラベルセンター



甲 理容店



東 料理スタジオ



甲 冷蔵サポートセンター



東 甲 レンタカー



研究 1 キッザニア体験を通じた非認知能力の醸成

～来場した親子に同行して見えてきたもの～

調査対象：キッザニア東京のこども議会 議員とその保護者18組
調査時期：2020年7月 調査方法：参与観察およびインタビュー

研究 2 キッザニアから渡り行く非認知能力の広がり

～日々の生活の中で変わりゆくこども達～

調査対象：過去1年半の間でキッザニアに来場したことのある親子1292組
調査時期：2020年11月 調査方法：Webアンケート調査

調査・分析

KCJ GROUP アカデミーラボおよびプロジェクトチーム
KDDI総合研究所 大門 貴之

非認知能力とは

学力テストで測定される認知能力とは違い、創造力や協調性といった人の特性や気質を指します。こどもの非認知能力は、成人後の学歴や収入につながる長期的な効果を持ち、教育やトレーニングによって養えることが明らかになっています。

研究 1 キッザニア体験を通じた非認知能力の醸成

1. 非認知能力の醸成につながる人々の関わり合い

キッザニアでこどもが主役となって行う職業・社会体験には、さまざまな人々が関わっています。特に保護者やスーパーバイザーは、パビリオン内外でのこどもの体験、交流、活動を支える重要な役割を担っています。こどもは大人の助けを借りながら経験を積み重ねていくことから、「非認知能力の醸成」という視点でキッザニアを覗くには、大人の存在や働きかけが鍵になりそうです。

実際に、非認知能力の育成において社会的関係を重視する動きは強まってきています。例えば、創造力の育成には、場を参加者が一緒になって動かし作ることが重要であると指摘されています^[1]。さらに、そこでの協働的活動は協調性やコミュニケーション力も促進します。これはモノづくりに限らない話で、こどもと大人で職業・社会体験を創造するキッザニアにも当てはまるといえます。

ところで、キッザニアで養われた非認知能力はキッザニアの中に閉じたものでしょうか。むしろ、キッザニアの外に開かれて、日常生活を豊かにするかもしれません。逆に日常生活で育まれた非認知能力が次の来場時に花開くかもしれません。とはいえ、キッザニアの外への非認知能力の広がりについてわからないことが多く残されています。

そこで研究1では、キッザニア内で非認知能力はどのように醸成されるのか、キッザニア外へその非認知能力はどのように広がるのかを検討しました。前者では、醸成につながるこどもと大人の関わり合いやその変化を明らかにするため、18組の親子（こども議員が調査協力）に対してキッザニア東京で参与観察^[2]とインタビューを行いました。後者は、インタビューでキッザニアでの体験の日常生活へのつながりについて尋ねました。今回はその分析結果の一部をご紹介します。

■ 調査協力者の18組の親子

調査協力者	子の年齢	子の性別	来場回数	参与観察時にこどもが体験したパビリオン
A	11歳	男	10回	飛行機、歯科医院、食品開発センター
B	10歳	女	10回以上	コールセンター、劇場、新聞社
C	9歳	男	7-8回	証券会社、CMスタジオ
D	10歳	男	20回	ハンバーガーショップ、ラジオ局
E	11歳	男	10回	ソーセージ工房、コールセンター、家電専門店
F	8歳	男	10回	地下鉄、総合商社
G	11歳	女	25回	コールセンター、劇場、ピザショップ
H	9歳	女	6回	総合商社、デパート、ゲーム会社
I	11歳	女	10回	総合商社、デパート、飛行機
J	12歳	女	65回	裁判所
K	9歳	女	10回	ラジオ局、くつ工場、マジックスタジオ
L	10歳	女	30回	街時計、歯科医院
M	10歳	女	104回	スポーツクラブ、劇場、カーライフサポートセンター
N	8歳	女	6回	総合商社、ソーセージ工房、街時計
O	9歳	男	8回	裁判所、地下鉄
P	11歳	女	20回	デパート、裁判所、エネルギー会社、警備センター
Q	10歳	女	30回	商店街、新聞社、デパート、おしごと相談センター
R	8歳	男	24回	レンタカー、プリント工房、おしごと相談センター、トラベルセンター

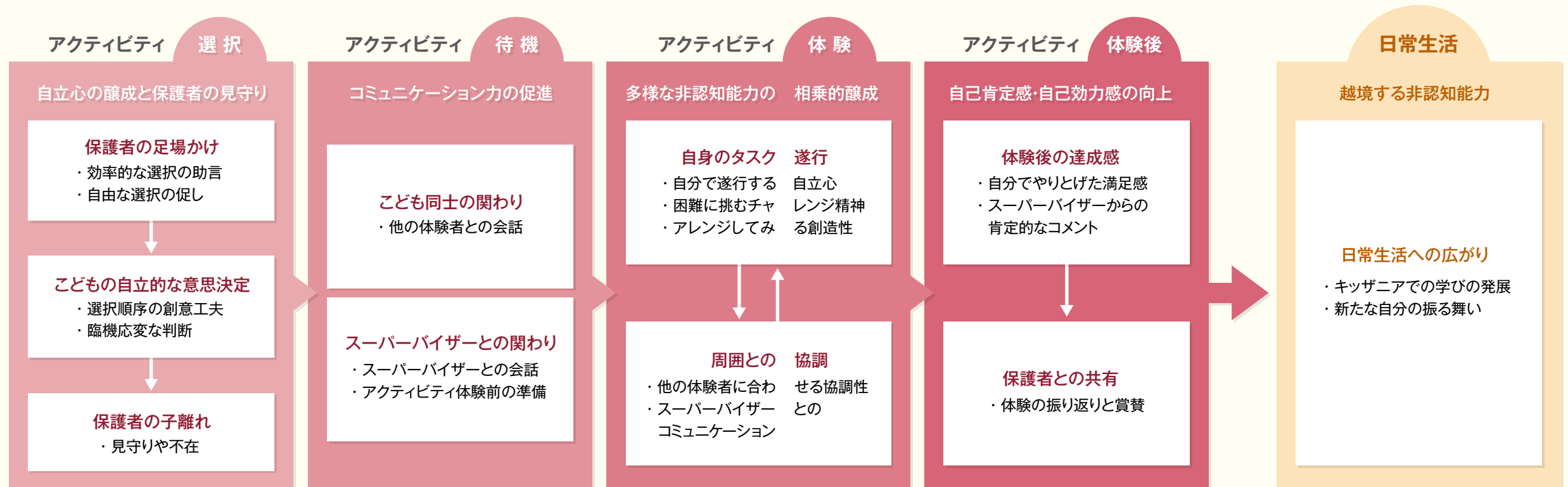
こども議会とは

こども議会とは約20名のこども議員で構成され、キッザニアの街をより良くするために定期的に議会を開き、話し合いや検証などの活動をしています。こども議員の任期は2年間で、キッザニアのこども達の代表として誇りをもって活動をしています。【対象年齢】応募時点で小学2年生～5年生

[1] 井庭崇ら(2019)『クリエイティブ・ラーニング: 創造社会の学びと教育』(慶應義塾大学出版会)

[2] 調査者が対象集団に入り観察しながら、そこで営まれる活動を記録する質的研究手法。記録データの分析には、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(木下, 2007)を参考にしました。

2. キッザニアでの非認知能力の醸成プロセス



参与観察とインタビューの結果

―アクティビティの選択から体験、そして日常生活へ―

キッザニアでこどもの非認知能力が醸成されるプロセスは、上図の通りになりました。アクティビティの選択、待機、体験および体験後のそれぞれの場面で、ときに保護者やスーパーバイザーに支えられながら、さまざまな非認知能力が養われる様子がうかがえました。さらに、キッザニアで醸成された非認知能力は日常生活に越境し、新たな自分の振る舞いとして現れることも示されました。

以降では、各場面でどのような非認知能力が醸成されたか、そこにどのような人々の関わり合いがみられたかについて説明していきます。

1 アクティビティ選択

―自立心の醸成と保護者の見守り―

こどもがアクティビティを選ぶにあたって、保護者は効率よく回れるように助言したり、あるいは自由に選

ぶように促したりと、こどもの選択を支えていました。

こどもはそのような保護者の足場かけを頼りに、アクティビティをより多く行えるように選択順序を工夫し、また体験の受付が終了している場合には別のアクティビティに向かうよう臨機応変に判断しながら、徐々に一人で意思決定できるようになっていく様子が見えられました。

こどもが自立的にアクティビティを選択できるようになると、保護者はこどもを後ろから見守ったり、こどもから離れたりと、身を引くようなサポートに変わっていききました。

2 アクティビティ待機

―コミュニケーション力の促進―

待機時には、他の体験者やスーパーバイザーとの間で会話や関わり合いがあり、アクティビティ体験外のやり取りの中にも、こどものコミュニケーション力が促進される可能性があることが読み取れます。

3 アクティビティ体験から体験後

―活動の幅の広がりに伴う多様な非認知能力の醸成―

アクティビティの体験では、最初、自分一人ではできないことが多くても、他の体験者やスーパーバイザーに助けられながら、次第に自立して遂行できるようになりました。そのうえ、自ら周囲に歩調を合わせられるようになり、自立と協調を両立できるようになっていきました。さらに、高い難易度への挑戦、表現や創作と活動の幅を広げていきました。このように、自立心と協調性、チャレンジ精神、創造力は相乗的に醸成されていく可能性があるといえます。

アクティビティを体験した後は、スーパーバイザーからの肯定的なコメントや保護者からの賞賛がみられ、こどもの達成感、さらなる自立、自信へとつながっていく様子が見られました。スーパーバイザーや保護者の前向きな関わりには、こどもの自立心や自己肯定感、自己効力感が向上するためのきっかけがあると見受けられます。

4 日常生活

―越境する非認知能力―

キッザニアで養われた非認知能力や学びは、日常生活へと越境していくこともわかりました。その代表的な例を下記にご紹介します。

キッザニアで養われた非認知能力は、こどもの日常生活での新たな自分の振る舞いとして現れることがうかがえます。

学校で人前に出て意見を言ったり、みんなの前で発表するのが好きじゃなかったのですが、人前で話したり、何かを伝えようとするようになりました（調査協力者Jの保護者）。



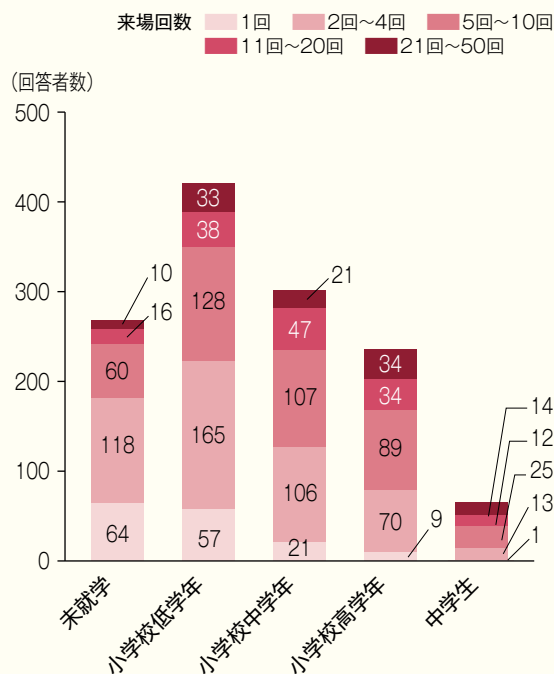
銀行のお仕事でお金を数えるのをやったら、実生活で銀行に行くときよくそれを見るし、パン作りを学んだら、パン屋さんに行くとクロワッサンを見たらこう作るんだよと言うように、学びと実生活が直結している（調査協力者Qの保護者）。

1. キッザニアから日常生活へと広がる非認知能力のゆくえ

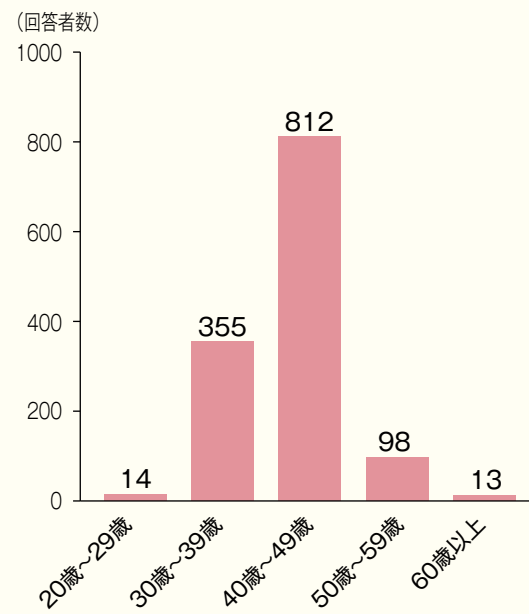
研究1の結果から、こどもの自立心はアクティビティの選択や体験など多くの場面で養われ、他の非認知能力の醸成にもつながることがわかりました。また、キッザニアで育まれた非認知能力は日常生活にも越境していくことも示されました。これらの結果を踏まえて、研究2では、キッザニアから日常生活に至るまでの非認知能力の影響関係を量的に検討していきます。

まず、キッザニアにおける保護者やスーパーバイザーの働きかけが、こどもの自立心の醸成へ与える影響を分析します。そして、その自立心が自己肯定感や自己効力感に及ぼす影響、自己肯定感や自己効力感が日常生活における非認知能力（創造力と協調性^[1]）の向上へ与える影響についても明らかにします。

■ 来場回数別の回答者（こども）の年齢区分



■ 回答者（保護者）の年齢区分



[1] 中山芳一（2018）『学力テストで測れない非認知能力が子どもを伸ばす』（東京書籍）では、創造力と協調性はこれからの社会で求められる非認知能力の筆頭としてあげられています。
 [2] 以下の尺度を短縮化、一部改変して使用。自己統制尺度（高坂・戸田、2005；キッザニアに場面限定）、自尊感情尺度（桜井、2000）、自己効力感尺度（成田、1995）、創造性尺度（角谷ら、2017）。なお、保護者とスーパーバイザーの働きかけについての尺度は研究1の結果を参考に独自に作成。

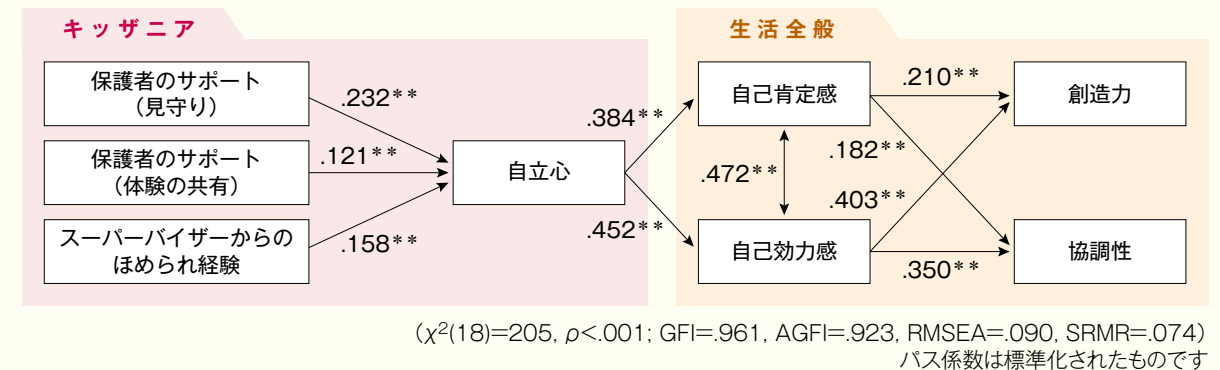
2. キッザニアから日常生活に至る非認知能力

キッザニアでの自立心の醸成につながる大人の働きかけと、その自立心が及ぼす生活全般の非認知能力への影響関係を検討するために、下図の統計モデルで分析を行いました。その結果、このモデルにおける仮説は一部支持され、保護者のサポートやスーパー

バイザーの働きかけが自立心の醸成を促す傾向にあり、そこから自己肯定感および自己効力感の向上と非認知能力の育ちへとつながっていることが確認できました。特に着目したいポイントは以下の通りです。

- ポイント①** 保護者のサポートは自立心の醸成にやや影響。スーパーバイザーにほめられた経験もこどもの自立心の育成に関与する傾向。
- ポイント②** キッザニアでの自立経験は、自分を認め、さらなる自信へ。自立心から自己肯定感、自己効力感へのパス係数はともに高い。また自己肯定感と自己効力感の間のパス係数も同様に高い値で研究1を裏付ける結果。
- ポイント③** 自分に対する自信は、非認知能力に波及。自己効力感から創造力、協調性へのパス係数は高い。

■ キッザニアでの体験から日常生活に至る非認知能力の影響関係



パス解析の読み方 —非認知能力の影響関係を探る—

パス解析とは変数間の関係性を明らかにする統計的な分析手法です。分析には、変数間の因果関係や相関関係を矢印で表したパス図を用います。パス図内で因果関係は片方向矢印、相関関係は双方向矢印で表記します。作成したパス図のモデルをデータに当てはめることによって、モデルがデータにどれほど適合しているかを検証し、変数間の関係性の強さを算出します。

パス解析の結果の読み方のポイントは、モデル適合度とパス係数の2点です。

- モデル適合度** — モデル適合度を示す指標には、 χ^2 、GFI、AGFI、RMSEA、SRMRがあり、それぞれ以下のような基準があります。
 - ・ χ^2 (カイ2乗): χ^2 の値から得られる、結果の偶然性を判定する p 値が 0.05 未満であれば、その結果が偶然生じたわけではなく、統計的に有意であることを表します。
 - ・GFI, AGFI: 0～1 の間の値をとり、0.9 以上が説明力のあるモデルとされます。
 - ・RMSEA, SRMR: 0～1 の間の値をとり、0.1 以下が説明力のあるモデルとされます。

- パス係数** — パス係数は矢印に記載されている値で、変数間の関係性の強さを表します。パス係数にも p 値があり、パス係数に ** をつけて p 値の結果を表します (** は p 値が 0.01 未満)。

上記パス図でパス解析を行ったところ、モデル適合度が高く、すべてのパス係数で有意となりました。

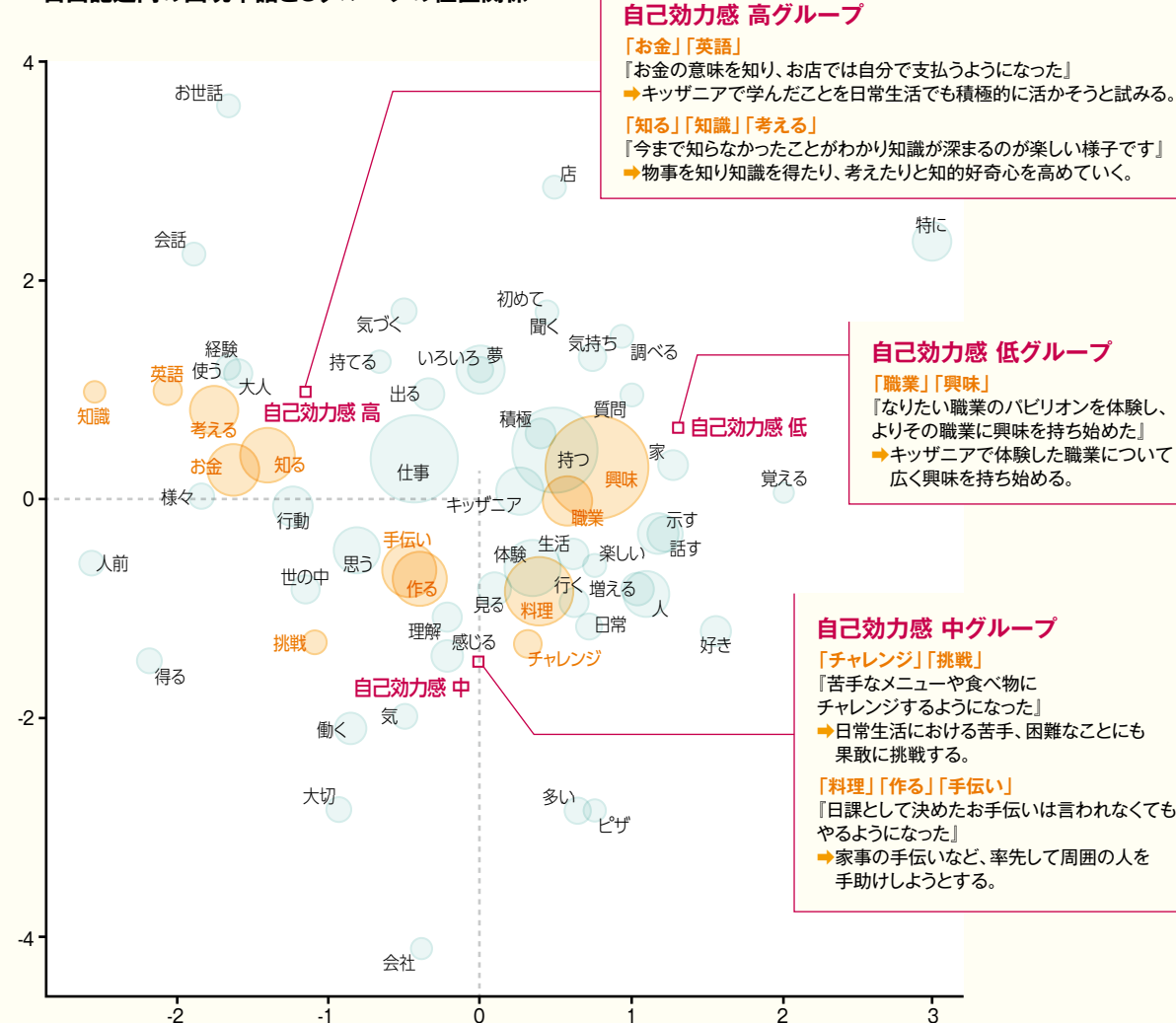
3. 自己効力感の高まりがもたらす日常生活の変化

—自由記述欄を対応分析した結果より—

自己効力感をスコア別に分けた低、中、高の3グループには、自由記述欄におけるキッザニアでの経験による日常生活の変化に差があることが示されました。自己効力感の中あるいは高のグループほど、苦手

なことにチャレンジしたり、身近な人を手助けしたり、キッザニアでの学びを生活の中で実践したりと、主体的、協調的な活動が増えていくことが読み取れます。

■ キッザニアでの経験による日常生活の変化に関する自由記述内の出現単語と3グループの位置関係



対応分析の読み方

—自己効力感の高低によって特徴的な単語に違いがあるか—

対応分析は、キッザニアでの経験による日常生活の変化を尋ねた質問への自由記述の中で出現した単語同士の関係性と、自己効力感のスコア別の3グループと単語との関係性を同時に視覚化できる分析手法です。出現頻度が高い単語ほど大きな円で表され、単語同士の距離が近いほど関連性が強いことを意味し、各グループの周辺に位置する単語からそのグループに特徴的な単語を読み取ることができます。

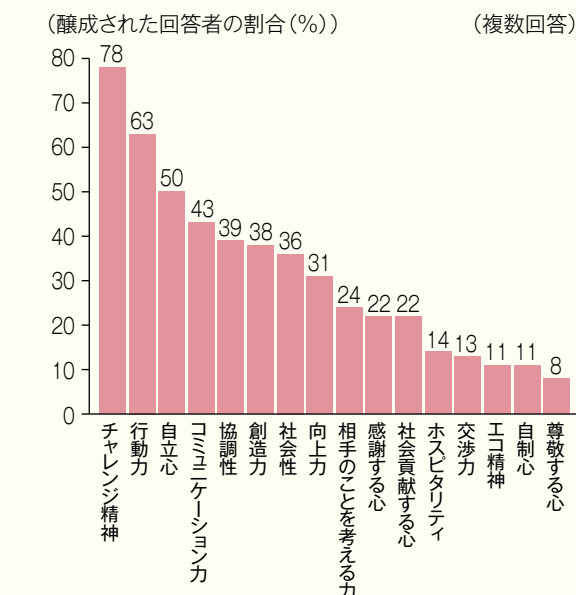
キッザニアへの繰り返しの来場はどのような非認知能力の醸成につながるか

「キッザニア10モットー」(p.4)や「キッザニアの12の生きる力」*から16個の非認知能力を抽出し、キッザニアでの経験によりそれぞれの非認知能力が醸成されたかどうかについても保護者に尋ねました。

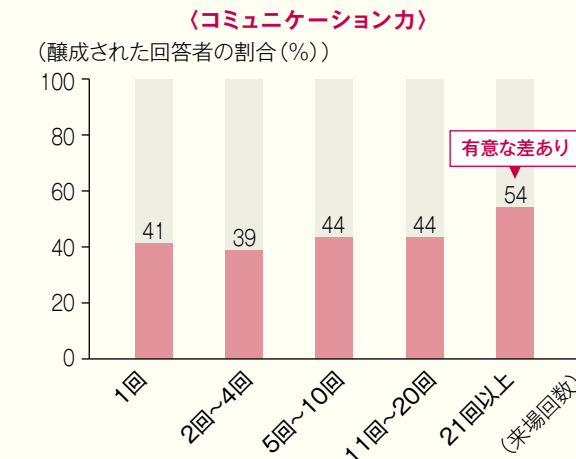
醸成されたと回答があった非認知能力の上位は「チャレンジ精神」「行動力」「自立心」など個人に関

する非認知能力が占めています。一方、来場回数別に分けて分析してみると「コミュニケーション力」「交渉力」「社会貢献する心」「エコ精神」といった対人、対社会に関する非認知能力において有意な差がみられました。その中で、「コミュニケーション力」と「エコ精神」の結果をご紹介します。

■ キッザニアでの経験により醸成された非認知能力



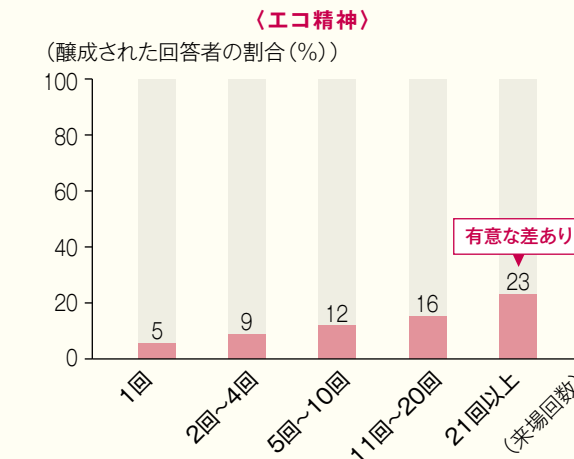
■ 来場回数で有意な差がみられた非認知能力の事例



■ 来場回数で有意な差がみられた非認知能力

非認知能力	カイ2乗検定結果
チャレンジ精神	$\chi^2(5) = 3.44, p = .632$
行動力	$\chi^2(5) = 5.32, p = .378$
自立心	$\chi^2(5) = 4.70, p = .454$
コミュニケーション力	$\chi^2(5) = 15.22, p = .009$
協調性	$\chi^2(5) = 0.86, p = .973$
創造力	$\chi^2(5) = 3.96, p = .556$
社会性	$\chi^2(5) = 10.18, p = .070$
向上心	$\chi^2(5) = 7.08, p = .215$
相手のことを考える力	$\chi^2(5) = 7.06, p = .216$
感謝する心	$\chi^2(5) = 2.29, p = .808$
社会貢献する心	$\chi^2(5) = 14.37, p = .013$
ホスピタリティ	$\chi^2(5) = 10.37, p = .065$
交渉力	$\chi^2(5) = 15.89, p = .007$
エコ精神	$\chi^2(5) = 27.77, p = .001$
自制心	$\chi^2(5) = 9.36, p = .095$
尊敬する心	$\chi^2(5) = 2.23, p = .816$

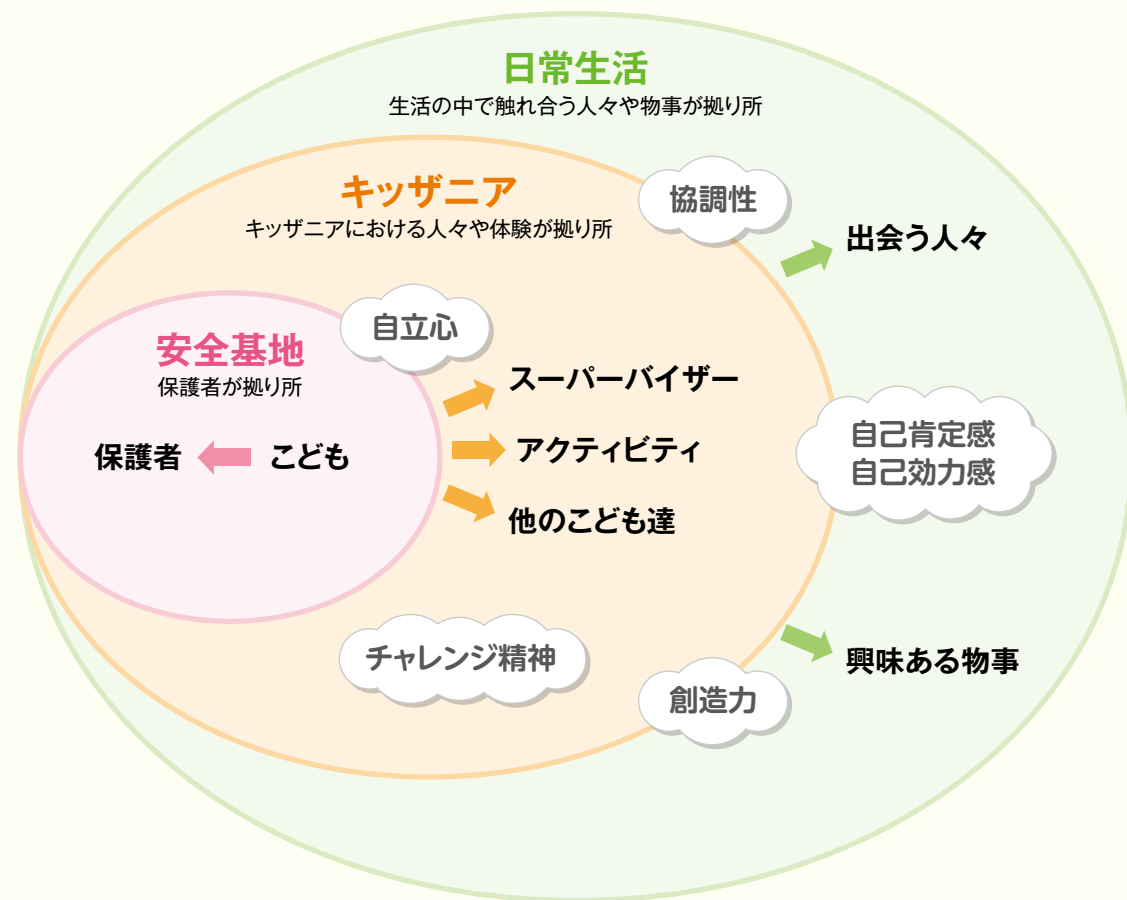
(p値が0.05未満の結果を有意と判定)



*「キッザニアの12の生きる力」考える力・創造力・行動力・交渉力・チャレンジ精神・向上心・協調性・社会性・自立心・エコ精神・ホスピタリティ・尊敬する心

研究 1 および 2 のまとめ

—自ら抛り所を築けて、時間をかけながら非認知能力を育めるキッザニア—



キッザニアでのさまざまな非認知能力の醸成には、親子関係の変化とキッザニアへの関わり方の変化が関係していました。最初のうちは、親が子どもに手助けや助言を行います、次第に子どもはスーパーバイザーやアクティビティなどキッザニア内に自分の抛り所を増やしていき、安全基地(愛着や信頼を置く抛り所)である保護者から離れていきます。このような振る舞いが自立心として現れ、新たな抛り所での体験や交流がチャレンジ精神や協調性など他の非認知能力の醸成にもつながっていくといえます。

キッザニアで抛り所を作る経験は、日常生活にも活かされます。キッザニアでの体験や学び、キッザニアで得た自分の価値や自信は、キッザニアの外に越境し

て、創造的なチャレンジや対人関係の構築へと続いていきます。そこで触れ合う人々や物事は、生活の中で自分の貴重な抛り所となっていくことでしょう。そして、その抛り所で発現されうる、対人、対社会に関する非認知能力は、キッザニアへの繰り返しの来場の中で着実に醸成されることもわかりました。これらの非認知能力は、これからの時代、地球規模での感染症の流行により一変したこの社会の長期的な立て直しに向けて必要とされます。将来の社会を担う子ども達が、自ら抛り所を築けて、時間をかけながら非認知能力を育めるキッザニアの果たす役割は大きいと言っても過言はないでしょう。

(KDDI総合研究所 大門 貴之)

アフターコロナ時代の非認知能力とキッザニア

KDDI総合研究所 フューチャーデザイン1部門 事業環境リサーチ1グループ

大門 貴之 (ダイヤモンド タカユキ)



新型コロナウイルス感染症の世界的大流行に見舞われた2020年は、人々の生活や仕事の様変わりし、教育でも大きな変化が迫られた年となりました。学校ではオンライン授業や分散登校などを講じながら、感染症が蔓延する社会の中で教育を継続させる動きがとられました。コロナ禍によって、教育に限らず社会のあらゆる場面で、従来のやり方の見直しや、他者との助け合いが一層必要であることが浮き彫りになりました。感染症が落ち着いた先の未来でも、新たな社会の創造や他者との協調は引き続き求められると予想されます。

そこで注目されるのが非認知能力です。非認知能力とは、創造力や協調性など学力テストでは測れない能力を指し、ソフトスキルや社会情動的スキルとも称されます。ただし、決して新しい概念ではなく、教育現場で生きる力や人間力と呼ばれてきたものと重なるところが多く、キッザニア10モットー(p.4)も非認知能力と捉えることができます。非認知能力が近年注目されるようになったのは、数十年にわたる縦断研究により、就学前のこどもの非認知能力が将来の収入や社会的成功へつながることがわかり、教育への投資は社会全体にとって有益であるという見方が広まったためです^[1]。非認知能力は現在、教育現場の改善だけでなく、仕事場面にも用いられていることから、キッザニアと深い関係にあります。

今回実施した2つの研究では、そのような非認知能力に注目しました。キッザニアでの非認知能力の醸成プロセスを探った研究1では、保護者の関わりやスーパーバイザーの働きかけがこどもの自立心の醸成につながることがわかりました。自立心はアクティビティ体験でも養われ、創造力など他の非認知能力とともに相乗的に醸成されること、キッザニアで育まれた非認知能力は日常生活へ越境することも明らかとなりました。

キッザニア内外の非認知能力の影響関係を検討した研究2では、研究1の結果を一部量的に裏付けることができました。特にキッザニアで養われた自立心は、日常生活における自己効力感に大きく影響し、自己効力感からさらに創造力へと波及していくことが示されました。諸外国に比べて創造力が低いとされているわが国の子ども達にとって^[2]、キッザニアは自分が変わり、日常生活も作り変えていくきっかけを得られる場所といえます。

そして今後は、テレワークや無人レジの導入をはじめ、コロナ禍を機に働き方や社会のあり方が見直されるのに合わせて、仕事や社会で求められる非認知能力も変わっていく可能性があります。例えば、コミュニケーション力はこれまで対面でのやり取りを前提としてきましたが、アフターコロナ時代には、遠隔でのやり取りや、ロボットやAIとの協業も加味した新たなコミュニケーション力が求められるようになるかもしれません。

キッザニア白書2016では、リアルな街並みの中で行う実社会に近い職業・社会活動の体験がキッザニアの魅力であると述べられています。これからのキッザニアにはさらに、アフターコロナ時代の仕事を体験でき、そのような社会に対応した新たな非認知能力も醸成できる場所となることを期待しています。

[1] 中室牧子(2015)『「学力」の経済学』(ディスカヴァー・トゥエンティワン)

[2] アドビシステムズ(2017)『教室でのZ世代: 未来を作る』(2017 Adobe Education Forum)

特別
対談OECD (経済開発協力機構)
東京センター 所長KCJ GROUP 株式会社
代表取締役副社長

村上 由美子 × 宮本 美佐

これからの時代を生きる子ども達に 養ってほしい非認知能力とは

予測困難なVUCA時代*、子ども達の成長にとって大切なことは何か。
世界の最前線で人材育成と向き合うOECD東京センター所長の村上由美子さんと
KCJ GROUP 株式会社 代表取締役副社長の宮本が、
これからの時代を生きる子ども達にとって大切な「非認知能力」について対談しました。

日本の子ども達に チャレンジするマインドを!

ー今回のキッザニア白書は「非認知能力」をテーマに
しています。村上さんは非認知能力について
どのようなお考えをお持ちですか?

村上 最初に人材育成を考える上で何が重要なのか、
という点からお話をさせていただければと思います。

特にこの10年くらい注目しているのは、教育の軸
がシフトしているということです。例えば、日本で従来
から行われてきた暗記重視の教育から、「自分で考える」
という問題提起力の育成を重視する教育が重要
になってきています。

OECDが行っている学習到達度調査「PISA」の結果
では、日本の子ども達は算数も国語も点数は良いの
です。そして、それと同時に明らかになったことは、自
己肯定感やチャレンジするマインドが足りないという
こと。まさに非認知能力の部分です。これは日本
にとって非常に大きな課題だと思います。

教育の中で非認知能力を高めていくにあたって、日
本の幼稚園、小学校、中学校はかなり根本的にギア
チェンジをしていかないとはいえないと思っています。
デジタル化の急速な発展により、知識や情報はイン
ターネットですぐに検索できるようになりました。その
ため、知識を詰め込むだけではなく、答えがないもの
に対していかに自分で疑問を抱き、工夫し、答えを導
き出せるかという教育が必要です。OECDとしては、
教育の分野においてスピード感をもってシフトを進め

ていかなければいけないと提言しています。

ー学力だけでなく、自己肯定感などのいわゆる非認知
能力へと教育の軸がシフトしていくというお考えは、
キッザニアとしても共感するところかと思いますが?

宮本 まさにそうですね。キッザニアのミッションは、
エデュケーション(学び)とエンターテインメント(楽し
さ)を掛け合わせた「エデュテインメント」を通じて、こ
ども達の生きる力を育むことです。その「生きる力と
は?」と問われたときに答えているのが、村上さんが
おっしゃったような「自分で課題を解決すること」や
「自立してチャレンジをすること」です。

キッザニアでは親から離れ、こども達だけで体験す
るスタイルをとっており、自立心を養うことに役立つと
考えています。そして楽しみながら仕事体験にチャレ
ンジしてもらうことで、「自分にも出来ることがいろ
ろあるかもしれない」「少しくらい失敗しても大丈夫か
も」「思い切ってチャレンジした方が楽しいんだ」など
と感ぜられる体験ができるので、主体性やチャレンジ
精神などの非認知能力を育むきっかけ作りやサポート
環境は提供できているかなと自負しています。

村上 失敗を恐れずチャレンジすることは大事なマイ
ンドですね。日本は減点主義なところがあるので、リ
スクを取ってでも新たなチャレンジができる社会環境
の醸成も必要だと思います。まずは大人からその姿勢
を身につけなくては。

大切なのは多様性を認め “つながる力”を養うこと

ーお二人がOECD、キッザニアという立場で教育を
どう考えているか分かりました。では、海外経験が豊
富なお二人の個人の視点ではいかがでしょうか。

村上 私が日本のことを考えるときに、いつも「もった
いないな」と思うのは、“つながる力”です。

“つながる力”とは、よく知られている話ですが、海外
でスマートフォンが開発されたとき、その機能や部品は

すべて日本の会社がすでに持っているものだったので
す。しかし、これらをまとめて1つのデバイスとして開発
できなかったのはなぜか?そこから日本が学ばなけれ
ばいけない教訓は、いかに自分の領域、常識、発想を、
それ以外のところと連携させるか、ということです。

日本の会社制度や労働市場は流動性が低く、いく
つかの会社を渡り歩く人はまだまだ少ない。だから1+
1=2で終わってしまい、1+1=20になることがない。

ドレッシングはいろいろな材料が上手く混ざってい
ますよね。そういう風に、多様な技術がミックスされて
生まれたものに大きな付加価値が付いて違うものへ
と変化する。

日本は世界でも特許取得数が多い技術力のある国
なので、それぞれの技術をどうつなげて創造してい
くかが課題だと思います。

宮本 それをこども達に置き換えると「自分とは違う
人・モノを認める」ことから始まるのかもしれない
ね。自分とは違う考えを持つ人や、知らないモノと触
れてみる勇気を持つこと。

先が読めない時代だからこそ、いろいろな人からそ
れぞれの意見を聞く手段を持つことが大切だと感じ
ています。そのために自分とは異なる「人・モノ」など
に興味を持って接していくオープンマインド、ソーシャ
ルスキルはこども達に持ってもらいたいですね。

村上 それは本当に重要なことです。英語では
「agree to disagree」と言って、価値観や意見は違
うけれども、「そういう考え方ややり方もあるんだね」
とお互いを認め合うことを意味します。日本の教育は
1つの答えに向かってみんなが勉強をするスタイルな
ので、そのマインドを育むのは少し難しいかもしれま
せん。「1+1」は考え方によっては3になると心の中
で思っている、言える環境ではない。

“つながる力”というのは、自分の持っている考え
方や価値観が他の人と違っていてもいいよね、という
マインドを、こどもの頃から養うことで生まれてくる
と思います。

宮本 キッザニアでの体験は、お互いに初めて会うこ



OECD東京センター 所長
村上 由美子
(ムラカミ ユミコ)

2013年にOECD東京センター所長に就任。OECDの日本およびアジア地域における活動の管理、責任者。政府、民間企業、研究機関及びメディアなどに対し、OECDの調査や研究、及び経済政策提言を行う。ハーバード・ビジネススクールの日本アドバイザーボードメンバーを務めるほか、外務省、内閣府、経済産業省はじめ、政府の委員会や委員を歴任している。

ども達同士で行うことがほとんどです。そこでのメンバーと共にゴールを目指すために、周りを導きながら進める子もいれば、それぞれのやり方をよしとして進める子もいます。その過程で、互いの違いに気づき、認め合う経験を重ねると良いかもしれません。子どもだけでなく、親も自分を顧みる必要がありますよね。

村上 親の価値観は重要ですね。

宮本 例えばニュースと一緒に観ている大人の「あれ駄目だよな」というような決めつけた発言が、子どもの心に影響している気がします。

村上 よく言われることですが、“多様性”ですね。多様性を受け入れるマインドを、まずは大人が理解をする。理解したら、実践する。そこが重要で、教育現場でも多様性に対する大人の考え方が浸透してくると、子ども達も自然と「僕は隣の子とは違うけれど、自分らしさを大事にしていけばいいんだ」という気持ちになっていくと思います。

宮本 「自分らしくていい」という考えは、自己肯定感

を養うことにつながっていきますからね。

村上 私のこども達はキッザニアの常連だったので、キッザニアの面白いところは施設内にいろいろな職種があり体験を重ねていくことで、今まで関係がなかったことが「自分ゴト」につながっていく部分があると思います。さまざまな仕事は社会の中で果たしている役割や循環性のような部分を、幼い時期からでも概念としてなんとなく分かるというのが良いと思います。

宮本 よく伺うのが、「キッザニアで銀行にお金を預ける体験をすると、親がそれをやる場面と一緒に見たがる」と。「キッザニアから帰ってくると、家に帰ってから自分でもう一回やってみる」や、「物事に興味を持つことにつながっている」という声は非常にありがたいと思います。

キッザニアでの体験は 親が子の自立を見守る練習になる

ー保護者として、こども達の非認知能力を育てていく環境や接し方について、お聞かせいただけますか。

村上 私が自分に言い聞かせているのは、私のこども達が社会人になるときには、私が知らない仕事に就いている可能性が高いということ。2021年の今ある仕事は、2030年や2040年には“ない”可能性が高いということ。

こども達に学んでほしいのは、答えがない環境で自分なりの答えを見つけるマインドを持つこと。親としてはその環境をサポートしていくということだと思います。

実際は言うは易しで難しいですね。ついこどもを守りたい気持ちが先走ってしまいます。

宮本 その気持ち、とてもよく分かります。守りたいと思っても、結局それは彼らを守っていることにはならないのですよね。

これからの時代は、人と“つながる力”を身につけ

て、さらに情報を得たり、助けてもらったりする力もこども達にあるといいのかなと考えています。また、自己肯定感も大切だと思うので、どんなことが起こっても物事をポジティブに捉える視点も持ってほしいです。

ただ親子の関係は近すぎるので、それらを養っていくには大人側の工夫が必要ですね。

村上 キッザニアに来て、こどもがすることに手を出さずに見守っているというのは、よい距離感を見つけるための親の練習にもなりますね。

宮本 そうなんです。親は先回りしがちなので、こどもが考える前に助けてしまうことがある。今回のキッザニア白書の定性調査でこども達の活動の様子を観察したのですが、親から離れ、自分の力で体験することで、自立心が芽生えるという結果が出ています。その自立心がベースになって自己肯定感につながっていくという調査結果につながりました。そのように「親」という安全基地から飛び出す挑戦の場として、キッザニアを利用していただけるといいと思っています。

ーVUCA時代のこども達に向けて、これからの時代を生き抜くためのメッセージはありますか？

村上 予測困難な世の中といえ、このコロナ禍もそうです。こういう時代に自分として大きな気づきとなったのは、「1人ではダメ」というメッセージです。

宮本 本当にそうですね。

村上 どんなに先見の明があるリーダーでも、1人ではなかなか難しい。なぜなら、教科書がない流動的な世界では、答えが無数になるから。だから、VUCAの時代に必要なのは「羊飼的なリーダー」。さまざまな視点・価値観・専門知識の深い知見を持った人たちがそれぞれの立場で、それぞれの環境から考えを持ち寄れる土壌を、リーダーとして築いていけるかだと思います。

宮本 本当にコロナ禍で浮き彫りになりましたけど、1人の価値観では立ち向かえないので、こども達には



KCJ GROUP 株式会社 代表取締役副社長
宮本 美佐
(ミヤモト ミサ)

1990年、国際電信電話株式会社（現KDDI株式会社）に入社。海底ケーブル投資・運用計画策定等、グローバルネットワーク構築事業に従事。2016年よりKDDI新規事業として、位置情報を活用したサービスの開発、保育ICT事業の他、地域活性化支援事業を担当。2020年4月1日より現職。

広くオープンに人に接する力を持ってもらいたい。さらに、人を巻き込むような共感力も大切だと感じています。

村上 共感力でいうと、共感する相手が自分と同じ価値観だとつまらないわけですね。自分とは思考や価値観が異なる人と共感できたら、きっと今まで自分が思い込んでいた世界だけではなく、気づかなかったところに新しい答えがあるでしょうね。そこがイノベーションのカギになると思います。

宮本 キッザニアは年齢もバックグラウンドも異なるこども達が一緒に職業・社会体験を行う場です。この多様性を活かして、こども達の“つながる力”を育ていけるよう、まずはキッザニアが時代の変化を前向きに捉え、様々なチャレンジを行っていきたいと思います。

* VUCA(ブーカ): Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)という4つのキーワードの頭文字から成る言葉。社会やビジネスにおいて将来の予測が困難になっている状態を示す造語。

保護者の皆様から寄せられた こども達の変化・成長エピソード

この度のWebアンケートでは自由記述欄に1040件ものご回答をいただきました。
ご回答くださった皆さま、本当にありがとうございました。
全てのご意見をキッズニアへのエールとしてとらえ、大切にしていまいります。
このページでは、その一部をご紹介します。

小さい頃は知らないこと、やったことがないことになかなか取り組めなかったが、キッズニアは自分からやってみたくて（どれも）と好奇心を持てた。
日常でも「どうせできない」という考え方をするのがあったが、「とりあえずやってみる」に変化してきたと思う。

消極的だったのが、何回か行くようになってから予約を取ったり、質問をしたときには親を介さず自分からスーパーバイザーさんに言えるようになってきたこと。

キッズニアの体験をする事で、学校生活の中で積極的に人前で発言する事が増えた。
お友達と助け合う気持ちがはぐくまれた。
社会生活に色々と興味や疑問を持つ様になった。

1人でパンを作るようになった。
弟達に自由帳を作ってあげた。
弟達をお風呂に入れたり、食事を促したり日常生活での誘導がますます上手くなった。
ご飯の盛り付けを工夫したがるようになった。

困ったことが起きても、周りの大人に声をかけて助言を求められるようになった。

初めて会った子とペアになってお仕事していて、子供たちの仲間意識や協調性など、親がいないところの方が発揮できるのかなと思った。

もともと警察官に憧れていて、何度も警察官のお仕事を体験しています。
今では習い事も、プール、空手、サッカー…と頑張っています。
プールは水難救助に役立てる為、空手は身体と心を鍛える為、サッカーは犯人を追いかける足を鍛える為…と一年生ながら自分で考え実行しています!!

仕事をしてお金を稼ぐ楽しさと大変さを少しわかった様な気がします。

防災や救命に興味を持ち、地域の防災イベントに積極的に参加してくれる。
以前は同じ年でもなぜできない子がいるのかわからなかったようだが、自分の初めてを何度も経験し、わからない、できない子にアドバイスや手伝いをしてあげる姿が見受けられる。



いろんな職業の人が世の中で仕事してるおかげで自分が生活できているという感覚が分かったようです。
(自動販売機にも補充する仕事があったり、宅急便の人を見かけると、荷物が重そうだね。等とキラキラと表に見えない様な仕事にも興味が出ました。)



おわりに



2014年より、キッズニアでの体験によって得られた効果を、大学研究機関などにご協力いただきキッズニア白書としてまとめてまいりました。今回の白書では、コミュニケーションのあり方が変容する時代において、キッズニアでの「体験」による効果を検討・発信することで、あらためて体験の価値について考える機会になればと思っております。また、次世代の育成に何が必要とされているかという疑問への一つの答えとして、非認知能力をテーマとさせていただきました。

これからのSDGs達成へ向けた世界において、多様な人たちの協働は必須になるものと考えられます。この白書では、そのような力を非認知能力としてとらえ、非認知能力が「体験」を通じてキッズニア内で育まれ、日常生活へと枝葉を広げていく様子をご報告しています。

「エデュテインメント」をコンセプトとしている施設として、これからも一人ひとりの子ども達の特質が活かされ、社会貢献へと結びつくような体験の提供を目指してまいります。また次世代の育成に資するような調査を行い、白書として公表することはミッションの一つととらえています。このような取り組みがキッズニアを支えて下さるゲストの皆様、教育関係の皆様、そしてスポンサー企業の皆様のご支援へ報いる方法であると考えております。

最後になりましたが、今回の調査研究にあたってお力添えをいただきました調査協力者の皆様、株式会社KDDI総合研究所の皆様にご心より感謝申し上げます。

KCJ GROUP 株式会社
代表取締役会長 住谷 栄之資

※設問1～7の回答は4件法で、「とてもよく当てはまる」「やや当てはまる」「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」から選択

- 1. 保護者様にお聞きします。キッズニアでの行動について、もっともよく当てはまるものを1つ選んでください。**
 - ・子どもがアクティビティを選ぶときは、アドバイスをしながら一緒に選ぶ。
 - ・子どもがアクティビティを選ぶときは、一緒にいて、子どもに選ばせる。
 - ・子どもがアクティビティを選ぶときは、少し離れて、子どもに選ばせる。
 - ・キッズニア館内では子どもに同行せず、保護者ラウンジなど離れた所にいる。
 - ・子どもがアクティビティを終えた後は、子どもに体験したことを聞く。
 - ・子どもがアクティビティを終えた後は、子どもが体験したことや成果物をほめる。
- 2. お子様にお聞きします。仕事を体験している時に、スーパーバイザー（キッズニアのスタッフ）からかけられた言葉について、もっともよく当てはまるものを1つ選んでください。**
 - ・よくがんばっていると言われた。
 - ・よく考えていると言われた。
 - ・一所懸命に取り組んでいると言われた。
- 3. お子様にお聞きします。キッズニアでのあなた（お子様）の行いについて、もっともよく当てはまるものを1つ選んでください。**
 - ・自分ひとりで物事を決めることができる。
 - ・自分の意見をはっきり言うことができる。
 - ・自分のことは自分ではんだんする。
 - ・あまり周りの人の意見にながされずに、行動したり考えたりすることができる。
- 4. お子様にお聞きします。ふだんのあなた（お子様）の気持ちについて、もっともよく当てはまるものを1つ選んでください。**
 - ・自分に満足している。
 - ・友だちと同じくらいに色々なことができる。
 - ・自分はだれかの役に立っていると感じる。
 - ・何をやるときでも成功するだろうと思う。
 - ・自分には長所があると思う。
 - ・得意だと思えることがある。
 - ・少なくとも他の人と同じくらい価値ある人だと思う。
 - ・自分のことをありのままでよいと思っている。
- 5. お子様にお聞きします。ふだんのあなた（お子様）の行いについて、もっともよく当てはまるものを1つ選んでください。**
 - ・とてもややこしく見えることにも、手を出してみる。
 - ・新しく始めたことが、出だしてつまずいても、すぐにはあきらめない。
 - ・自分が立てた計画は、うまくできる自信がある。
 - ・何かをしようと思ったら、すぐにとりかかる。
 - ・思いがけない問題が起こった時でも、それをうまくいけつできる。
 - ・何かをしようとする時、自分にはそれができる自信がある。
 - ・むずかしいことに出会っても、やりぬく。
 - ・面白くないことをする時でも、それが終わるまでがんばる。
 - ・人生で起きる問題の多くはかいけつできる。
- 6. 保護者様にお聞きします。お子様のふだんの行動について、もっともよく当てはまるものを1つ選んでください。**
 - ・「これは何だろう」「なぜこうなるのだろう」という疑問を持ち、考える。
 - ・物事の法則性や規則性を見つけ出すことができる。
 - ・これまでの知識や経験をつなげて、新しい課題を解決していこうとする。
 - ・人の考えない光る考えを思いつく。
- 7. お子様にお聞きします。ふだんのあなた（お子様）の行いについて、もっともよく当てはまるものを1つ選んでください。**
 - ・あいての人の立場を考え、接することができる。
 - ・あいての気持ちを考えて、うまく関わるることができる。
 - ・他の人の気持ちを思いやることができる。
- 8. 保護者様にお聞きします。リストの中の項目で、キッズニアでお子様にとって気づきがあったと思う項目を選んでください（複数回答可）。**
 - ・行動力 ・創造力 ・向上力 ・チャレンジ精神 ・自立心 ・自制心 ・協調性 ・コミュニケーション力 ・交渉力
 - ・社会性 ・尊敬する心 ・感謝する心 ・相手のことを考える心 ・社会貢献する心 ・ホスピタリティ ・エコ精神
- 9. 保護者様へお聞きします。お子様がキッズニアでの体験をきっかけに、日頃の生活の中でできるようになったことや変化したことはありますか？（例：料理に興味を示すようになった。など）**
- 10. 今回お答えくださったお子様の、キッズニア来場回数で当てはまるものを選んでください。**
 - ・1回 ・2回～4回 ・5回～10回 ・11回～20回 ・21回～50回 ・51回以上
- 11. 今回お答えくださったお子様の年齢枠で当てはまるものをお選びください。**
 - ・未就学 ・小学校低学年 ・小学校中学年 ・小学校高学年 ・中学生
- 12. お子様の性別を選んでください。**
 - ・女 ・男
- 13. 保護者様の年齢枠で当てはまるものをお選びください。**
 - ・20歳～29歳 ・30歳～39歳 ・40歳～49歳 ・50歳～59歳 ・60歳以上



© KidZania